

# 新日本華道会のいけばな

古典から現代までの魅力的ないけばなの展開

新潮格花と構成花

古典格花

自由花

新日本華道会専元

西村 雲華



# はじめに

日本には、いけばなという素晴らしい伝承芸術の遺産があります。花の心を知る人間の豊かな気持ちも自然と結びつき、美しいいけばな芸術が生まれ、日常生活の中で多彩に生かされていることは、まことにすばらしいことです。

しかしながら、あまりに生活化されたために本来の精神的な内容に欠けることとなり、いけばな芸術そのものが低俗化しつつあることは、私ども華道家として反省しなければならぬことであると思えます。

古典と現代とを問わず、いけばなとはなんであるかをもう一度、ふりかえって見なければなりません。ただ花を器に挿しただけでいけばなといったり、あるいは変わったものさえいけば、それが新しいいけばなであると簡単にかたづけしてしまう傾向にあることは、まことに受けがわしいことです。

伝承芸術をより高い次元のものに築き上げるのが、現代に生きる私たちの仕事といえます。

古典の本質的なものをじゅうぶんに把握してこそ、現代に生きる姿に置きかえられるといえましょう。

そこにこそ、人間の精神の、ほんとうに打ち込まれたこれらのいけばなが創り出されるのです。

古典から現代まで、さまざまな角度からいけばなを楽しんでいたのが本会のあり方で、とくに新瀬格花という特色ある格花を制定し、これを研修することによって、いけばな造形に対する新しい分野を会得していただくことができるようになっていきます。

古典から現代まで、流派をこえた立場で現代のいけばなを自由に楽しんでいただけるのが本会のあり方であり、本書の意義も実にそこにあると信じております。基本的な内容で、ふじゅうぶんな点もあると思いますが、これからのいけばな研究の上に、何かを質するならば、この上の幸せはありません。



新日本華道会家元  
二世 西村雲華